



学校だより

平成29年 6月30日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.472

ホタル観賞会に寄せて

副校長 横尾 康幸

6月28・29日に、ホタル観賞会が行われました。

心配していた雨に降られることなく、2日間で、延べ、4000人を超える参加がありました。この観賞会を開くに当たっては、保護者の皆様、地域の皆様をはじめ、多くの方々のご助力をいただきました。この場をおかりして、厚く御礼を申し上げます。

さて、このホタル観賞会ですが、第1回目は平成13年7月10日に行われたと記録に残っています。かつて田柄上水周辺で見られたホタルを、今の田二小の子供たちにも見せてあげたいとの思いから始まったそうです。その会が、16年間、連綿と続けられてきたということになります。

元PTA会長さんたちが、ある時、こんな話をしてくれました。

「子供たちが夜の学校にやって来る。そこで、友達や先生方と会う。中には浴衣姿の友達もいる。普段の学校生活では味わえない経験をした時、子供たちはとても嬉しそうな顔を見せてくれる。その顔を見るのが楽しみで毎年手伝いにくるんだよ。」

今でこそ、ホタル池の周りにはしっかりとしたドーム状の柱が立っているため、シートを張るのがだいぶ楽になったそうですが、以前は柱を立てるところから始めたので、とても苦勞をしたというお話も伺いました。

さて、肝心のホタルですが、本年度は「ゲンジホタル」と「ヘイケホタル」の2種類の共演でした。暗くてよく見えなかったと思いますが、体長は、前者が15～20mm、後者が8～10mmほどのともに小さな甲虫です。

淡い黄緑色の光の正体は、「ルシフェリン」という発光物質が、体の中の発光器の中

で酵素によって化学反応を起こし、光の点滅になります。

成虫の口は退化していて、水分くらいしか摂り入れることができません。幼虫時代に蓄えた栄養で生き延びるため、せいぜい1～2週間しか生きられないそうです。ホタルを見ていると神秘的な感じがしますが、このような命の「不思議さ」や「儚さ」といったものがその要因となっているのかもしれない。

現在、学校の周りには住宅地が立ち並び、ホタルとは縁遠い環境となっていますが、もし、タイムマシンがあったなら、当時のこの地域の様子なども見てみたいですね。

ここまで、ホタル観賞会に触れてきましたが、本校には他にも「葉かげの集い」「卒業餅つき」などの行事があります。これらの行事にも、今回の観賞会と同じように、行事をつくり支えてきた方々の思いや努力の積み重ねがあることは想像に難くありません。

このような恵まれた地域に学校があることをとても嬉しく思いますし、子供たちの中から、将来、この地域を担っていく人材が数多く出てきてくれることを願ってやみません。

お知らせ

- ・6月1日より学校生活臨時支援員として、佐藤 明美さんが勤務しています。
- ・井上 希 主任養護教諭が1学期終業式をもって産休になります。代わりに、鹿島 恵里奈 養護教諭が入ります。